

## 食資源循環による環境のまちづくり

### NPO 法人 伊万里はちがめプラン

特定非営利活動法人 伊万里はちがめプラン

〒846-0026 佐賀県伊万里市大坪町狩立乙 2436-1

<http://hachigame-plan.org/>

生ごみを家庭や店舗から回収し堆肥をつくり、元気な農産物として家庭に返すという循環の取り組みを住民や農家と共同で行う。

「はちがめ」とは古代から生きるカブトガニのことで、伊万里の自然を豊かなままにという願いが込められている。



伊万里市の住宅街に設置された「生ごみステーション」。ポリバケツには家庭から出た生ごみが集められます。早朝、各ステーションを車で巡回して生ごみを回収しているのは、「伊万里はちがめプラン」の代表・福田俊明さん。

市内でレストランを営んでいる福田さんは、17年前、お店から出る生ごみをながめながら、「もったいない、何とかこれを有効活用できないだろうか」と思いました。それから5年以上にわたって生ごみを良質な堆肥にするための微生物

## だれもが目で見分ける生ごみの循環を目指して



伊万里はちがめプランが近年力を入れているのが環境教育。プラントを見学に来た小学生に説明する福田さん

物の研究や温湿度の実験を行い、念願であった堆肥化実験プラントを1999年に完成させました。

生ごみの堆肥化を本格的にスタートさせたものの、当初は、「いったいどんな効果があるのか」と堆肥活用への理解はなかなか浸透せず、出来上がった堆肥が売れ残ることもありました。廃業をも考えた福田さんが思いついたのは、生ごみが資源として循環し、再び食卓に戻ってくる姿を、だれもが目に見える形で伝えていくことでした。

2001年、佐賀県環境サポーターに選ばれたことを機に

PR活動を積極化。同年から始まった「伊万里菜の花プロジェクト」では、はちがめ堆肥で菜の花を栽培。休耕田に咲き広がる菜の花に、地元メディアの注目が集まりました。さらに、菜の花から菜種油を生産して販売、その油を回収して廃食油によるバイオディーゼ

ル車（9ページ参照）の燃料として使用しました。

12人の市民で出発した生ごみステーションは、09年6月現在、23か所、250世帯に。生ごみの回収の周知には、「てんぷら油で車が走る」とペイントされたバイオディーゼル車が市内を走ります。生ごみが堆肥になり、堆肥が菜の花を咲かせ、菜種が食用油として食卓に戻り、廃油が車を走らせる循環を、福田さんはだれも見分ける方法で実践してみせたのです。「微生物のはたらきの話を聞いている時の、子どもたちの好奇心いっぱいの目を見ていると、活動への意欲がわいてきます」と福田さん。今後は多くの学校と協力し、環境教育にも力を入れていきます。